

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、旧年中は当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年のが我が国の経済情勢は、東日本大震災の復旧・復興の影響もあって、前半にあっては、厳しい中にあっても緩やかな景気の持ち直しがみられましたが、夏以降は、世界経済の減速、円高の進行、デフレの顕在化等により景気の回復は遠のく状態が続きました。

このような中で、プレカット加工業の業況をみますと、昨年の住宅着工戸数の動向は、一昨年に比べて増加傾向で推移しましたが、特に秋以降は消費税値上げに対する駆け込み需要の影響等により、地域的な差異はあるものの、総じてプレカット工場の稼働率は例年になく高水準で推移し繁忙に転じた一年でありました。

一方、国産材資源が充実しつつある中で、森林・林業再生プランが制定されて3年が経過し、この間、木材の利用促進を図るための各般の施策が実施されてきました。木造建築関係においては、大型木造建築物の普及に結びつく公共建築物での木材利用の促進が法制化されました。また、長期優良住宅の普及促進とともに、それを一層深化させ、地域で木材生産から住宅生産まで関係者が連携を図る地域型住宅ブランド化事業がスタートしました。さらに、省エネ基準の大幅な改訂と低炭素住宅の認定がスタートし、昨年7月には「再生可能エネルギー特措法」が施行され、太陽光発電や未利用の間伐材等を使用したバイオマス発電による電力の買い取りが制度化され、国産材の利用促進とともに省エネ時代の実現に向けた取り組みが本格的に始まっています。今後、これらの実効性を確保するため、我が国の景気回復に明るい期待感を持ちつつ、木材供給サイド、住宅産業等の木材利用サイドそれぞれの主体的な取り組みにより、住宅着工数の回復、しいてはプレカット加工業の持続的な業況改善が図られていくことを強く念願するものであります。

当協会は、昭和60年の創立以来、品質の確かなプレカット部材の生産、供給を目的として会員工場のプレカット加工技術の向上を図るため活動を行ってきました。本年は、会員に対する技術支援として、プレカットCAD技術者の認定を行うことにしており、そのための研修を初めて開催します。これらを通して、CADオペレーターの技術的インセンティブを高め、プレカット工場が工務店、設計事務所等との連携のもとに安全・安心な住環境の創造で顧客満足の得られるような木造住宅の提供にお手伝いできることを期待しています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になりますよう、そして皆様方にとって素晴らしい一年となりますように祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



一般社団法人  
全国木造住宅機械プレカット協会  
会長 櫻井 秀 弥

## 第47回全国木材産業振興大会開催される

第47回全国木材産業振興大会は、平成24年10月17日に宮崎市で「新たな木材利用への挑戦で、木材産業の創造的再興～くらし、街づくりに森林の恵みを活かそう～」をメインテーマにして開催されました。

大会の第一部では、まず、横田欽一郎宮崎県木連会長の歓迎の挨拶、大会会長である吉条良明全木連会長の挨拶があり、農林水産大臣（代理）、国土交通大臣（代理）、宮崎県知事、宮崎市長から祝辞がありました。

引き続き、「東日本大震災復興に不可欠な木材・木質資材の需給安定と地域材を活かした支援対策の充実に取り組もう」等の6項目の大会宣言が満場一致で決議されました。

また、第二部においては、退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功労者の表彰が行われ、受賞者に対し長年に亘る功績が賞賛されました。

なお、全国木材産業振興大会関連行事として、「国産材時代を切り拓く「九州の林業・木材産業」と題するパネルディスカッション（コーディネーター：東京大学名誉教授 有馬孝禮氏）が開催され、全国のスギ人工林資源の急速な充実に対応するため、出口対策（木材の生産、流通・加工、販売）の取り組みの重要性について活発な議論が行われました。

## 違法伐採対策国際セミナーが横浜で開催

平成24年11月11日に横浜市のパシフィコ横浜で、全木連主催による「違法伐採対策合法証明木材等に関する国際セミナー2012」が開催されました。

これは、林野庁ガイドラインに基づき、我が国の業界団体が行っている業界団体の認定を受けた事業者の証明の連鎖で、需要者に木材の合法性を証明する仕組みは、国際的に「Gohowood」の取り組みとして知られていますが、今回は、この取り組みをITTO等の海外の関係者にPRし、今後の展望について議論するため、ITTO理事会に合わせて開催されました

第1部は、「違法伐採問題に対応した合法性証明のための日本の取組」として、林業経済研究所荒谷理事長が座長となり、まず、林野庁、全木連から基調報告がありました。それを受けて、道木連、日合連、輸入協会から合法木材供給に関する活動についての報告がされ、また、家具メーカー等の需要者側からは合法木材の取り組みに対する期待が報告されました。

第2部においては、欧州、米国、東南アジア、中国の関係者から各国の取り組みについての紹介とともに、我が国の取り組みについて評価や期待が報告されました。

最近、欧米においては、違法伐採対策問題に関する法律が施行されており、トレサビリティ確保について努力義務が求められるようになっていますが、我が国のように、生産者から消費者への連鎖が繋がるような取り組みが行われている国はなく、今後、それぞれの関係国での取り組みの成果をもとに、実情に応じた違法伐採対策が行われることが期待されています。

### プレカットCAD技術者研修受講者募集始まる —プレカットCAD技術者2級対応—

期日及び場所 大 阪：2月25日（月）～26日（火）  
東 京：3月4日（月）～5日（火）  
名古屋：3月7日（木）～8日（金）

詳細は、「プレカットCAD技術者研修のご案内」をご覧ください。

# 協会会員工場基礎調査結果について(第3回)

## － 年間総生産量・AQ製品生産量調べ －

調査対象年月：平成23年12月  
調査対象工場数：43工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合 計
総生産量 (単位：100坪)	12、60、74、 76、91、93、 96	110、112、 112、113、 118、118、 130、144、 170、177、 186	244、258、 268、273、	300、300、 330、360、 364、380、 390、400、 422、425、 473、480	528、551、 561、693、 729、862、 1,358、 1,600、 4,062	18,603
(平均)	(71.7)	(135.5)	(260.8)	(385.3)	(1,216.8)	(432.6)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	0、0、0、0、 0、0、77	0、0、0、0、 0、0、0、0、 9、10、112、	0、0、0、 244	0、0、0、0、 0、0、0、0、 0、110、360、 422	0、0、0、0、 0、12、14、 72、356、	1,798
(平均)	(11.1)	(11.9)	(61.0)	(74.3)	(50.4)	(41.8)
AQ製品生産比率	15.3%	8.8%	23.4%	19.3%	4.1%	9.7%

### ◇簡単なコメント

- 1 会員43工場を対象とした調査によると、平成23年の年間平均生産量は、43,260坪で、1棟当たり40坪換算すると1,080棟に相当する。前年の平均生産量は、37,060坪だったので、大幅な増加といえる。一方、年間平均生産量を階層別にみると、10,000坪～50,000坪の各階層では、ほぼ横ばいであるが、10,000坪未満の階層では30%増加、また、50,000坪以上の階層では17%減少している。これは、生産量が9,000坪台と50,000～60,000坪台の工場が増加したことが原因とみられ、生産構造の変化により、工場の階層間の移動があったものと推測される。
- 2 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は9.7%で前年に比べて1.2ポイント上昇した。これは、AQ製品の生産量は、近年、低下傾向で推移している中で、中堅規模の工場において、AQ製品が比較的活発に生産されたものとみられ、最近の長期優良住宅に代表される品質の高い住宅の生産動向が反映しているものとみられる。

# プレカット業況調査(平成24年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率:51%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	43	46	11	+32	+36
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	18	39	43	-25	+6
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,180円(対前回調査-100円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	7	86	7	0	+3
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	7	79	14	-7	-6
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	4	57	39	-35	+27
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	4	50	46	-42	+9
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	32	47	21	+11	+18
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	11	36	53	-42	-9

\* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\* 前回調査:平成24年8月

## ◇簡単なコメント

11月の各地のプレカット工場の受注額、収益のDIは、前回調査に引き続いてプラスで推移しているが、加工単価は横ばい若しくは下落傾向である。前回調査までは容易だった資材入手は、一転して困難な状況が表れはじめている。また、3ヶ月後の収益については、冬の不需要期に当たるため、マイナスとする見方が支配的である。

1. 受注額のDIは+32で前回調査時(平成24年8月期)とほぼ同様の傾向。また、3ヵ月後の予測は一転して-25と、冬場に当たるので受注量の減少は不可避と思われる。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは0であるが、平均総加工単価は6,180円で100円低下した。また、3ヶ月後の製品加工単価の予測のDIは-7になり、加工単価の上昇は見込めない厳しさがある。
3. 資材の入手状況のDIは-35と前回調査時に比べて困難化している。また、3ヶ月後においても-42と予測されており、さらに厳しくなるものとみられる。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは+11と前回調査時に比べて若干低下したものの、3ヶ月後の予測は-42と大きく低下している。3ヵ月後の受注額、加工単価、資材の入手は、ともにマイナスに転じるため、収益の悪化は避けられそうもない。